

「情報教育」

～ 沖縄市地域イントラネットの活用を図るために～

1、取り組みにあたって

現学習指導要領では「生きる力」を育むことが重視されているが、その要素としての「情報活用能力」を高めることは学校においてもはや当然の課題・使命になってきつつある。また、同時にIT活用が初等中等教育において効果的に行われ、子ども達の『確かな学力』の向上につながることを求められている。

本県でも学力向上対策主要施策「夢・にぬふぁ星プラン」において「コンピュータの操作・活用能力」を基礎学力の一つとして位置づけ、その能力の育成を求めている。また、「沖縄県教育情報化基本計画」、「沖縄県教育情報化推進計画」においては、教員・ハード・ソフト及び、各要素のつながりを基本的視点にして、IT活用を「学力向上のために用いるツールであると認識すること」や「実践的なIT活用の指導力を高める」ことを教員の役割としている。我々教員にとって、コンピュータの操作やコンピュータで指導ができることは、子ども達に情報活用能力や確かな学力をつける上では、もはや必須能力の一つと言っても過言ではない。

県の目標では平成16年度、つまり本年度中に概ねすべての教員がコンピュータで指導できるようにすることを目的としている。平成16年3月末の文部科学省の調査によると、沖縄県のコンピュータを指導できる教員の割合は小学校95.2%、中学校91.8%で全国2位の高水準となっている。一方沖縄市は、小学校で99.2%、中学校96.2%と沖縄県の平均を更に上回る結果となっている。インストラクターによる職員対象のIT研修実施や早い段階からの生徒用コンピュータ導入や地域イントラネット整備事業の成果とも言える結果であろう。しかし、この結果がコンピュータを活用した授業実践や学力向上には直接的につながっているとは言いがたい。つまり、どの学校も活用に向けて動き始めたばかりである。また、近年社会問題化している情報モラルの指導・育成も各学校で取り組みに差があるのが現状である。

そこで、我々情報教育研究協力員は「沖縄市地域イントラネットの活用」が、コンピュータやネットワーク等を利用した「わかる授業」の実現、教員の指導力向上、さらに児童生徒の情報モラルも含めた情報活用能力の育成につながるものと考え、その更なる活用を図るべく以下の活動に取り組むことにした。

2、活動内容

沖縄市地域イントラネットの活用を図るための具体的取り組み

- (1) 情報モラルの指導・育成のための授業実践
- (2) 沖縄市版情報モラルサイトの作成
- (3) 沖縄市デジタルコンテンツの収集、公開
- (4) コンピュータやインターネットを活用した学習指導の事例紹介

3、活動経過

月 日	内 容
5月27日(木)	委嘱状交付式とこれまでの活動内容報告と今後の活動計画について
6月22日(火)	デジタルコンテンツ収集・公開事業についての詳細打ち合わせ、各分担の決定、研究授業の内容・時期の検討
7月15日(木)	コンピュータ主任研修会におけるデジタルコンテンツ提出の協力要請
8月10日(木)	研究授業の指導案・内容検討、沖縄市版情報モラルサイトの作成
8月16日(月)	コンピュータ主任研修会、10年目研修会(情報教育) ～コンピュータやインターネットを活用した学習指導の事例紹介～
8月22日(木)	コンテンツデータの回収についての話し合い、収集後の日程の確認
9月15日(水)	研究授業「チャットの使い方」(情報モラル)の実施(高原小学校6年2組 新川健次教諭)、授業研究会の実施、 ホームページの作成方法の講習会、分類についての話し合いの実施
10月22日(金)	回収データのチェック、一覧表の作成、リンクの添付作業
10月末日	沖縄市教育情報共有サイト(デジタルコンテンツ)の公開 (沖縄市立教育研究所ホームページ内)

4、活動の実際

(1) 授業実践～情報モラル～

「情報教育に関する実践的研究」、コンピュータやインターネットを活用した学習指導における実践的な研究を行うため、今年度は研究授業を実施した。授業者は研究協力員、高原小学校の新川健次教諭。授業を行うに当たっては、沖縄市地域イントラネットの活用を図ると共に、近年社会問題化している「情報モラル」の指導・育成に留意して検討した。

< 指導案 >

第6学年 総合的な学習の時間指導案

平成16年9月15日(水) 5校時
6年2組男子22名女子17名計39名
授業者 新川健次 印
共同研究者 沖縄市情報教育研究協力員

1 題材名 チャットの使い方(情報モラル)

2 題材について

最近、長崎県で小学生による痛ましい事件が起こった。その原因として電子掲示板やチャットなどインターネット上のトラブルもあったと報じられている。

インターネットを活用することで、かつての手段では考えられなかったほどの広範囲を対象としてコミュニケーションを行うことが可能になった。今後、さらに発展していくであろう情報化社会においては、情報を的確に収集・選択・活用する能力とともに、情報を自ら発信する能力も大切になっていく。しかしながら、今回の事件のようにインターネットの特性のひとつである匿名性を利用した悪質な情報発信が、同様に利用する人を傷つけてしまうことにもつながる。

この先、ネットワーク上でのコミュニケーションは避けて通ることはできない。だからこそ、ネットワークの向こうに人がいるということ、そしてネットワークを介していても対面しているときと同じように相手を思いやる気持ちを忘れてはならない。

この題材を通して、電子掲示板やチャットなどを利用した誹謗中傷がどのような影響を与えるのか、併せてその行為の愚かさを伝えたい。

3 児童について

子どもたちのほとんどが、コンピュータの時間を楽しみにしている。

五学年においてフロッピーディスクの使い方、写真の挿入などを学んでいる。また、国語科・社会科などの調べ学習などでインターネットでの検索を行い、パソコンに親しんでいる。

また、情報モラルの指導として、電子掲示板の使い方を6月に学習している。

4 本時の展開

(1) 本時のねらい


他人の悪口を書いて喜ぶ行為の愚かさについて知り、楽しくチャットをするためには、どういうことに注意すればいいのかを考えることができる。

(2) 授業仮説

チャットでの問題点を話し合う際に、疑似体験活動を行うことで、誹謗中傷の与える影響を理解するとともに、チャットをより良く利用する方法を考えることができるであろう。

(3) 準備 児童用ワークシート

(4) 学習指導の過程

過程	学習活動	予想される反応	指導の手立て・支援
導入	今日の授業の確認 チャットについての説明 ・チャットを利用すると、遠く離れた人と瞬時に情報交換ができること	<ul style="list-style-type: none"> ・チャットって何？ ・自分もやったことがある。 ・おもしろそうだな。 	<p>全員を前に座らせて、今日の授業について確認する。</p> 

<p>展 開</p>	<p>実際に『ハイパーキューブネット Jr』「会議室」を利用し、模擬チャットを行う。</p> <p>全体を2つのグループに分け、チャットを行う。 PC 1~8 Aグループ PC 9~16 Bグループ PC 17・18 サーバー</p> <p>各グループの4つのグループは悪口や人が嫌がるような内容を書いてもらう。</p>  <p>チャットについて話し合う。 実際に悪口を書かれてどうだったのか意見を出し合う。 チャットの問題点やどのように使うべきかを出し合う。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・変な文を書いている人がいる。 ・イヤだなあ。 ・ばれないからいいのでは？ ・自分も書きちゃえ。  <ul style="list-style-type: none"> ・悪口を書いていると楽しかった。 ・誰が書いたか分からなからつつい自分も書いてしまうかも。 ・自分が書かれたらイヤだな。 	<p>「ハイパーキューブネット Jr」の使い方を教える。 (全体で確認する) 操作方法がわからない子への支援を行う。ローマ字入力が苦手な子にはローマ字表をもとに入力させる。 各グループを半分にして、チャット上で悪口を書いてもらう。(他の子に分からないように特定の児童に悪口を書き込むよう事前にお問い合わせする。) 特定の児童への悪口を書かないようあらかじめ注意する。 あまり悪口が出てこない場合は教師がチャットに参加し、書き込む。</p> <p>児童の意見を引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪口を書いた児童の意見を聞く。 ・悪口をかかれた方の児童の意見を聞く。
<p>まとめ</p>	<p>沖縄市情報モラルのサイトを見て、チャットの使い方について確認する。</p> <p>ワークシートにまとめる。 ・授業からチャットの正しい使い方についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャットの使い方について気をつけてルールを守り活用しよう。 	<p>沖縄市立教育研究所のホームページ上にある「情報モラルサイト」へアクセスし、全体で内容を確認する</p> <p>分かったことや注意したいこと、感想などを書かせる。</p>

(5) 評価

他人の悪口を書いて喜ぶ行為の愚かさについて知り、楽しくチャットをするためには、
どういうことに注意すればいいのかを考えることができたか？

(6) 資料

総合的な学習の時間 ワークシート

情報モラル(チャットの使い方)

6年 組 番 氏名 _____

今日チャットをやってどうでしたか。(楽しかったことやイヤだったことなど)

これから楽しくチャットを使うために注意することを書きましょう。
(みんなで話し合ったことや情報モラルサイトから)

今日の授業で分かったことを書きましょう。また、これからどのようにチャットを使っていきたいですか。

5 授業研究会の記録

於：高原小学校研修室

< 授業者反省 >

- ・ 長崎県で掲示板やチャットなどインターネット上のトラブルが原因となって命を落とす事件があった。今後、ネットワーク、情報が発達していく中で、重要なスキルになると思う。「ダメ」「やってはいけない」だけでなく、子どもたちには、どうやっていけばよいのかを考えさせる時間にしたかった。
- ・ 授業の事前に悪口を書くグループを決めていた。活字に残る悪口が、どういう気持ちの変化になるのか、書かれる側、書く側の気持ちを考えさせたかった。
- ・ 沖縄市の情報モラルサイトを活用した。今後も活用していきたい。
- ・ 悪口を書いている子が「誰が書いているか相手にわからないから、楽しい」と言う子がいた。きちんと浸透させるには、どうしたらいいのか課題である。

< 参観者感想 >

- ・ 悪口を書くグループの子が、悪口を書くことに心を痛めていた様子が見られた。相手を気遣う気持ちがきちんと持つことができていた。
- ・ 「悪口を書くことは、楽しかった」と子どもたちが言い出したときに、その流れをうまく修正していたので良かった。
- ・ コンピュータを小学校では、まだ楽しく遊ぶであるが、中学校では、コンピュータが日常的にすぐに結びつく可能性が多いと思う。中学校でも、しっかりと考えていかなければならないと思う。
- ・ 会話の中で「死ね」「明日から学校来るな」などの文に、「なんでそんなことを言うの」という返事が返ってきた。その言葉は拾うとよい。その言葉を大切にしたい。
- ・ 現在のコンピュータを使った授業のベストであったと思う。
- ・ 授業の中で、会議室に入るなどの操作活動はなくても良かったのではないかと。チャットについて話し合うことが重要である。チャットは、匿名である。そのため、無責任になり、罪の意識がなく、ついついやってしまう。それを、考える時間を十分にもたせることが大切であると思う。
- ・ 「相手の気持ちを考える」など、児童に考えてもらうための「キーワード」をみんなで考えると良いのではないかと。
- ・ チャットは、意見交換の場である。悪口を書く場ではないことをきちんと示す。
- ・ 発表もチャットの中でやると本音の意見もでて、いいのではないかと。
- ・ モラルについては、学校での指導も大切であるが、家庭での指導も必要であろう。
- ・ 情報モラルサイトを沖縄市全体の小中が使えると良い。(研究所のHPに掲載予定)
- ・ キーボード操作の個人差の解消方法を全体的に確認していく必要がある。
- ・ キーボード操作を小3年生から触れさせていくとよい。日常的に学級で日直日誌を打たせるなどの工夫をしていくと自然に上達する。

6 ワークシートの児童の感想から

今日のチャットをやってどうだったか。

- ・ みんなと一緒にチャットをやって楽しかったです。でも、何名かが悪い言葉を書いていました。ちょっといやな気持ちになりました。
- ・ とてもおもしろかったです。でも、悪口を書かれていたのは見たときは、嫌だったし、怖かったです。
- ・ 文句を書いていると思ったことは、直接（面と向って）文句を言っていないので、調子にのってしまうということです。
- ・ 実際に文句を書かれて嫌だったので、もっと相手のことを考えてやりたい。
- ・ 文句や悪口を言われてすごく嫌でした。書く人は楽しいけれど、受け取る側は最悪でした。

今日の授業で分かったこと（これからどのようにチャットを使いたいかなど）

- ・ 自分に言われて嫌だと思えることを書いたり、注意ごと（ルールやマナー）をちゃんと守ってやりたいと思った。
- ・ 今日の授業で分かったことは、嫌な言葉を使うと相手が嫌な気持ちになるから、ていねいな言葉を使うということ。
- ・ 自分が実際やってみて、文句とかあると嫌だったので、丁寧な言葉を使わないといけなると分かった。相手が嫌な気持ちになることは書かないようにしたい。
- ・ 人の嫌なことは言わない！これからは楽しく仲良くチャットをやっていきたいです。

7 チャットのログ（記録）

実際に子ども達どうしが匿名でチャットをした時の記録の一部です。

おっちゃん> こんにちは。今日は人がいっぱいいるね。
くるてく> いっぱいきてる
おとと> はじめまして。
ないですさんが入室しました(現在 : 9 人)
ひろこ>あおう、私は、ひろこです！
あっひー>こんにちわ
轟> 死ぬ死ぬお前誰か今すぐ、やめろじゃないと殺すぞ
あっひー> おまえも
大> タンソク.出っ歯
ひろこ> あなたの、顔どんな顔ですか??
ひろこ> きもそう・・・
ないです>ふつうです
あっひー> へんなかおです

???> ばいばい???
轟> 明日から学校くるな
おとと> 私たちは、おととととい
います。夜路死苦。
くるてく> ダメだよ、たくまくん。ねー
教えてよ
ないです> そうですか
大> 母
ひろこ> あーやっぱり・・・きもそうー
大> 歯歯歯歯
???> おまえが
おとと> 轟さんは、なんでへんなこ
とをいうのですか?
あっひー> おとととさんよろしくね
くるてく> ちょうしにのるな
轟> ひろこお前誰だ
ひろこ> おまえがだれ??

(2) 児童向け沖縄市版情報モラルサイトの作成

情報モラルの指導・育成は、情報教育の推進には欠かせないものである。沖縄県でも平成16年度までにIT安全マニュアルの作成を各学校に求めており、インターネットや電子メールの利用規定や個人情報や著作権等の取り扱いについてのルール作りが急務である。と同時に、児童生徒にも一定のルールを示す必要がある。しかし、沖縄市には情報モラルに関する独自の児童生徒向け資料がなく、学校によっても取り組みに差があるのが現状である。そこで、今回研究協力員で内容を検討し、児童向けの沖縄市版情報モラルサイトを作成することにした。美東小学校のネチケット（ネットワーク上のエチケットの意）をベースにし、インターネットを始める前の心がまえや、インターネットやチャットなどの項目ごとに子ども達に気をつけて欲しい点や考えて欲しい点について記述した。前述の高原小学校での情報モラルの研究授業の際にも活用し、子ども達の理解に役立った。今後、インターネットを活用する際やオリエンテーション等で各学校に活用していただき、情報モラルの指導・育成の一助となることを期待する。

< 児童向け沖縄市版情報モラル（沖縄市情報モラルのページ）のアドレス >

沖縄市立教育研究所ホームページ

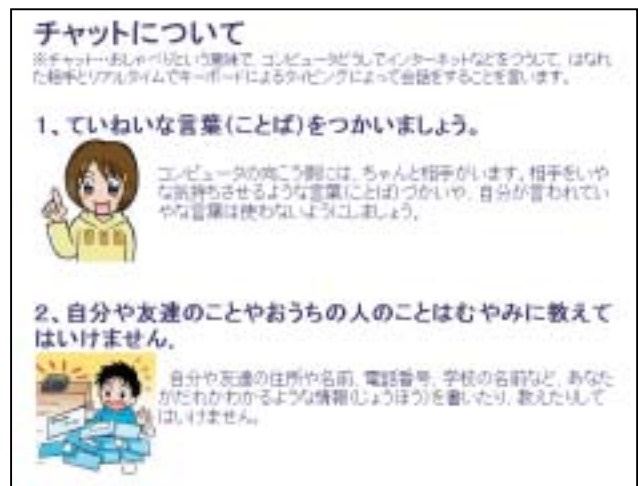
<http://www02.bbc.city.okinawa.okinawa.jp/oki/gyousei/gokk/>

沖縄市情報モラルのページ

http://www02.bbc.city.okinawa.okinawa.jp/oki/gyousei/gokk/12-joho_moral/moraltop.htm



(沖縄市情報モラルのページ～トップ画面～)



(チャットについて)

また、情報モラルを指導・育成するにあたって、有用な教材や実践事例がインターネット上でたくさん公開されているのでいくつか紹介する。

『情報モラル研修教材』 http://sweb.nctd.go.jp/kyouzai_new/index.htm

『“情報モラル”授業サポートセンター』 <http://sweb.nctd.go.jp/support/index.html>

『ネット社会の歩き方』 <http://www.net-walking.net/>

(3) 沖縄市デジタルコンテンツの収集、公開

<ねらい>

「わかる授業の実現」と「情報活用能力の育成」を図るためには、コンピュータやネットワーク等、情報機器を用いた各種のデジタルコンテンツを活用した授業を行うための情報・資料提供が必要である。

情報教育研究協力員では、沖縄市内の小・中学校からデジタルコンテンツを活用した授業教材や指導案、実践事例等を収集し、その成果を蓄積し公開及び広報することにした。これにより、沖縄市地域イントラネットを活用して、沖縄市内のすべての教職員が必要なときに様々な授業教材や指導案、実践事例等を自由に活用できることになる。

<作業の工程>

各小・中学校からのデジタルコンテンツの提供

(小学校は各学年1事例以上、中学校は各教科1事例以上)

情報教育研究協力員での内容のチェック、編集作業

沖縄市立教育研究所ホームページ内から公開(平成16年10月末日)

<コンテンツについて>

- ・ 研究実践発表や指導案、授業の教材や個人で作成した学習ソフトやデータベースなど、教育活動全般における内容を対象とする。
- ・ 児童生徒の個人情報や個人を特定するような文や画像、著作権を侵害する恐れのあるデータ等は掲載しない。
- ・ データは、Web上で公開可能であれば形式・種類は問わず、そのままの形式で公開するものとする。
- ・ 掲載されたデータは、利用者が自由にデータを取り出し、編集・改変等の二次加工をして活用することを目的とする。

<沖縄市教育情報共有サイト(デジタルコンテンツ)のアドレス>

沖縄市立教育研究所ホームページ

<http://www02.bbc.city.okinawa.okinawa.jp/oki/gyousei/gokk/>

沖縄市教育情報共有サイト

http://www02.bbc.city.okinawa.okinawa.jp/oki/gyousei/gokk/00-digital_contents/oki-joho/toppage.htm



(沖縄市教育情報共有サイト トップ画面)



(小学校のコンテンツ一覧画面)

(4) コンピュータやインターネットを活用した学習指導の事例紹介

沖縄市立教育研究所の主催で8月16日、第8回IT研修会が実施され、コンピュータやインターネットを活用した学習指導、指導法改善の事例紹介が行われた。

インターネットを活用した授業実践 (美東小学校 甲斐 崇教諭)

ア 「伝え方を選んでニュースを伝えよう」の実践報告

- ・2005年の教室をイメージした授業づくり
- ・身近に、手軽に、簡単にITの活用(デジカメの動画機能を使ったニュース撮影)
- ・教科での活用・ねらいを押さえるためのIT(伝える力、書く力の育成を目指す)
- ・ホームページや電子掲示板を使用した北海道との交流共同学習



(HPに公開した児童のニュース)



(電子掲示板での北海道とのやりとり)

イ インターネット上のデジタルコンテンツの紹介

ウ ITを授業で活用するにあたっての留意点 (中川一史@金沢大学:2003)

- ・まずは使ってみること(インターネット上にはたくさんのコンテンツがある)
- ・IT活用が子ども達の学びに結びついているか見取る必要がある。
- ・ITやデジタルコンテンツが役立つ場面を見極めているか?必然性があるのか?使う場面を見極める必要がある。
- ・ITで授業がほんの少しよくなる。ITを使えば全てうまくいくわけではない。
- ・子ども達にどんな力をつけさせたいのか、そのためにどんなしかけをするのかを常に考える必要がある。結局は教師の授業のデザイン力が勝負
- ・情報教育=コンピュータの活用なのか?情報活用の実践力は各教科を通して体系的に身につけていく必要がある。

スマートボードを活用した授業実践 (安慶田小学校 久高直人教諭)

ア T O S Sインターネットランド(<http://www.tos-land.net/index2.php>)内の「授業に役立つ教科学習リッチコンテンツ集」の紹介

イ 上記のコンテンツを提示しながらの模擬授業の実演(国語、算数、英語など)

インターネットとプロジェクターで簡単に準備ができ、子ども達が意欲を持って学習に取り組めるような教材を多数紹介、実演していただいた。



5、成果と課題

(1) 成果

沖縄市地域イントラネットの活用を図ることができた。

「情報モラル」の授業実践を行い、今後の情報モラルの指導・育成の検討課題を持つことができた。

「沖縄市情報モラルサイト」を作成し、研究授業において活用できた。今後、各学校での活用が期待される。

各学校の協力により各種指導案等のデジタルコンテンツを集めた「沖縄市教育情報共有サイト」が公開された。今後の活用が期待される。

コンピュータやインターネットを活用した学習指導の事例紹介では地域イントラネットを活用した実践が紹介され、これからの授業改善につながるものとなった。

(2) 課題

「情報モラル」育成のための取り組みは単発で終わるものではないので、継続して取り組むことが必要である。学校間での取り組みの違いが現状ではあるので、各学校での実践が求められる。

「沖縄市情報モラルのページ」は今後更に活用しやすく更新作業が必要である。また「モラルページ」を活用した授業や指導案等もあわせて開発が必要である。

デジタルコンテンツの提出は全小中学校にお願いしたが、一部回収できない学校があった。引き続き今後とも協力をお願いしていきたい。

コンテンツを集めて終わりではなく、今後の活用方法についても周知徹底が必要である。また次年度以降の収集、公開作業についても検討が必要である。

日々の授業改善のためのIT活用という視点に立ち、児童生徒に確かな学力や情報活用能力を身につけるための授業実践が今後ますます求められる。情報教育研究協力員が今後研究する内容として検討していきたい。

< 情報教育研究協力員 >

小学校 甲斐 崇（美東小学校） 新川 健次（高原小学校） 平安座智子（コザ小学校）
中学校 比嘉良行（宮里中学校） 後藤 直樹（山内中学校） 宮川 龍寛（越来中学校）

< 主な参考資料 >

情報教育の実践と学校の情報化 ～新「情報教育に関する手引き」～

文部科学省

平成14年 6月

沖縄県教育情報化推進計画 情報教育の実践と教育の情報化

沖縄県教育委員会

平成14年11月

実践的情報教育カイゼン提案

中川一史 ジャストシステム

平成16年 2月

メディアとのつきあい方学習

堀田龍也 ジャストシステム

平成16年 6月